

台湾研修

理数科・普通科 2 年生の希望者を対象に「台湾研修」が実施されました。

昨年 10 月、2 年生を対象に募集を行い、その後事前研修を経て 3 月に研修に出発しました。主な内容は次の通りです。

・日程

平成 29 年 3 月 19 日(日)～24 日(金) 5 泊 6 日

・参加生徒 2 年生 普通科 8 名 理数科 20 名

・研修内容

3/19 (日) 台北市内

3/20 (月) 淡江大学(新北市)において講義参加、ポスタープレゼン

3/21 (火) 国立故宫博物院見学(台北市)、
新北市立板橋高級中学(新北市)においてポスタープレゼン(相互発表)、生徒交流

3/22 (水) 国立基隆高級中学(基隆市)においてポスタープレゼン、実習授業参加、生徒交流

3/23 (木) 国立科学工業園区実験高級中学(新竹市)においてポスタープレゼン(相互発表)、実習授業参加、生徒交流

3/24 (金) 帰国

「台湾研修事後報告」

3年I組 大久保敦也

私はオーストラリア(以下 AUS)短期留学にも参加し、今回は二度目の海外研修だったので、幾分かリラックスした気持ちでこの研修を迎え、台湾と AUS の違いを体験することができた。まず初めに感じたのは、街並みである。大通りには色々な店が道路を挟んで所狭しと看板を並べ、広々とした AUS との違いに驚いた。AUS の街並みは、日本で抱いていたイメージ通りの欧米的なものだったが、台湾では独自の文化が残っている。こんな風にして始まった研修は、AUS とは異なる角度から、得るものが多かった。

なかでも新しい視野を得られたのは、英語のプレゼンがきっかけだった。昨秋、今回訪れた実験高級中学が船高を訪問した際その英語力に脱帽したのだが、



今回私たちが実際にプレゼンを行ってみると、内容が全く伝わらなかった。その大きな原因は、私たちが正しい文法と発音を使えていないことだった。AUS では、英語力は今よりも低かったが、拙い英語で何とか自分の気持ちを伝えることができた。だから今回も、伝えようとするれば伝わるものと思い込んでいたのだが、考えてみれば今回のプレゼンの相手は台湾人であって、母語は中国語なのだ。これでは伝えようとする気持ちがいくらあっても、相手が理解するのに時間がかかってしまうのは当然だ。そこで私が考えたことは、国際的なコミュニケーションツールとして英語を使うためには何が重要なのか？ということだった。結論から言えば、普段私たちが学校で学んでいることが本当に大切だということである。AUS 研修では文法や発音よりもまず話してみることが大事だったが、台湾では違った。二つの研修だけでこんなにも違う発見があった。

また、同世代との交流でも、AUS との違いを感じた。オーストラリア人はフランクで明るく接してくれたが、言いたいことははっきり言葉にしないと伝わらなかった。台湾で出会った人々は、向こうから積極的に話しかけてくれる訳ではなかったが、私たちの言いたいことを予想して、温かい心遣いをしてくれた。台湾人の気質は日本人とかなり似ているとあってよい。改めて世界は広く、様々な人がいることに思いを馳せた。



私は「人工火成岩の探究」と題して研究を行ったが、実験がうまくいかないことがあったり、結果から考察できないことがあったり、苦勞の連続だった。それをまとめていくなかで、自分で考え行動する力を養うことができたのではないかと考えている。また、いくら研究の内容が良くても、相手に伝わらなければ意味がない。だから、プレゼンをするときは、いつもよりも相手の目を見て話すことや、大きな声ではっきりとゆっくり話すことなど、相手にどうしたら伝わるのかを考えることが重要であるということも強く感じた。後輩の皆さんも、自分の頭で考えて充実した研究を行ってほしい。

まだまだ書きたいことはたくさんあるが、あとは実際に研修に参加してもらって、その場の空気を肌で感じて、学んで来てもらいたい。

高校生科学技術チャレンジ 優等賞受賞 《Japan Science & Engineering Challenge》

主催 朝日新聞 テレビ朝日

平成 28 年 12 月 10 日(土)・11 日(日)日本科学未来館に於いて JSEC2016 の最終審査会が実施され、3 年 I 組佐藤翔太君が優等賞を受賞しました。

英語による講義・実験

理数科 1 年を対象に科学英語入門授業が行われました。

・平成 28 年 11 月 14 日(月) 4 限

「科学英語の入門的講義」千葉大学工学部共生応用化学科教授 斎藤恭一先生

・平成 29 年 2 月 22 日(水)6 限

「英語による化学実験・時計反応」シェーンコーポレーション Anthony Gardner 先生(下の写真)

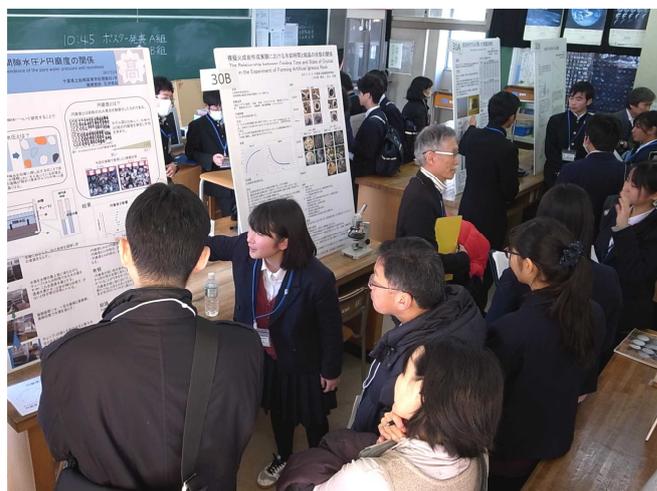


国立基隆高級中学



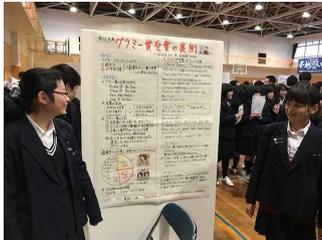
SSH発表会開催

平成 29 年 2 月 4 日(土)SSH 発表会が開かれ、理数科の課題研究の成果が披露されました。指導助言の先生方をお招きしご指導を賜った他、大勢の保護者の方々や中学生も来校し、賑やかなポスター発表会となりました。

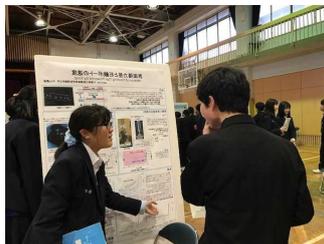


「社会と情報」ポスター発表

本校では普通科「社会と情報」の授業においても探究活動を行っています。3月16日(木)に普通科1年生全員でポスター発表会を実施し、その中から33班が4月11日(火)7限に新1年生の前でポスター発表をしました。当日は、理数科3年生の課題研究発表も併せて行われ、船橋高校のテーマ探究の全体像がわかる充実したものとなりました。



社会と情報の発表



理数科課題研究の発表

平成29年度 第1回 SS講演会

4月14日(金)に千葉大学学長 徳久剛史先生をお招きし、「免疫学に魅せられて～若者はなぜ臨床医ではなく研究者の道を選んだのか」という演題のもと、第1回SS講演会が開かれました。

高校生活ですべきことや大学進学のための目的など先生の実体験からのアドバイスが盛り込まれ、非常に示唆に富む内容の講演会となりました。



「免疫学に魅せられて」千葉大学学長 徳久先生

平成28年度 SS講座一覧

分野	テーマ	連携先	実施日	参加人数
数学	ロボット講座	千葉工業大学 fuRo	4/22 (金)	19名
物理	モデルロケット打ち上げ実験	元筑波大学宇宙技術プロジェクト所属 本校卒業生	5/28 (土)	18名
化学	化学実験～光で色が変わる物質をつくる～	千葉大学工学部	5/31 (火)	27名
化学	研究所見学～色彩の化学～	DIC株式会社総合研究所	6/21(火)	9名
物理	霧箱製作実験および素粒子講座	高エネルギー加速器研究機構(KEK)	6/24 (金)	15名
生物	植物工場見学	千葉大学環境健康フィールド科学センター	7/14 (金)	10名
生物・地学	SS自然教室 (浅間山・草津白根山)	本校	8/3 (木)～4 (金)	31名
地学	つくば校外研修 (JAXA・地質標本館見学)	産総研・JAXA	8/25 (金)	46名
生物	遺伝子組換え実験講座	千葉大学園芸学部	11/22 (火) 25 (金)	30名
数学	数学講座 ～完全符号～	千葉大学理学部	11/22 (火) 25 (金)	18名
物理	物理実験講座～リニアモーターカー～	千葉大学理学部	12/20 (水)	3名
数学	マセマティカ講習会	千葉大学理学部	12/26 (火)	11名
生物	ラット解剖実習講座 ～体に入った薬の経路と臓器の役割を 考えてみよう～	千葉科学大学薬学部	1/28 (土)	34名

平成28年度 第8回 千葉県高等学校課題研究発表会

平成29年3月18日(土)
市川学園市川中学校・高等学校

口頭発表の部
優秀賞受賞
「ハノイの塔の柱を x 本にして最小手順の数を求める」

2年I組 坂口 慶多

今年度は市川学園を会場に開催され、県内の課題研究に取り組んでいる学校の代表者による口頭発表11件及び215件653名のポスター発表が行われました。

【ポスター発表参加一覧】

物理分野

理数科2年	
「落ちる紙が滑る条件」	秋葉 海弥
「ダイラタンシー現象と界面張力の関係」	水野 智晴・河崎 喜斗
「紙飛行機の主翼の迎え角を変えたときの揚力の変化」	李 瑛博

化学分野

理数科2年	
「EPDMの劣化と次亜塩素酸ナトリウム水溶液の温度・pHとの関係」	小林 純也・苺米 洗亮
「様々な化学物質の利用による酸化チタンの酸化能力の変化」	丸山 衡平・岸田 実優

生物分野

理数科2年	
「紫外線がジョロウグモの牽引糸に与える影響」	大草 三起

理数科2年	
「ミズキンバイ(絶滅危惧種Ⅱ)が生育しやすい環境と保全の考察」	松原 瑞貴・小原 瑞稀
「なぜワモンゴキブリは2種類の糞をするのか」	山田 隼也・山本 莉央

地学分野

理数科2年	
「透過水量と円磨度による液状化への影響」	篠崎 実紗・石井 咲妃
「人工火成岩の生成時における冷却時間と結晶の状態の関係」	大久保 敦也・井上 大裕
「寒天をモデルに用いた免震の研究」	高橋 大樹・大久保 歩
「大気が夕日の色に与える影響」	大山 智弘・吉雄 忠行
「固体表面を上昇する液体の運動」	鍋田 悠人
「星の瞬きの定量的観測」	余 世良・吉田 拓暉

理数科1年

「空の高度による輝度と青さの変化」	成瀬 梨々香・宮本 彩加
-------------------	--------------

数学分野

理数科2年	
「指折り掛け算の拡張」	齋藤 諒明
「四次元ルービックキューブで解の最小手数を求めるアルゴリズム」	長谷川 世波

編集後記

新年度も多くの行事が予定されています。新1年生も早速参加し、未知の世界を体験して楽しんでいます。理数科だけでなく、普通科の生徒も機会を捉えて視野を広げてほしいと願っています。次回号も皆さんの記事に期待しています！(Y)